

平成 2 7 年度事業計画

自 平成 2 7 年 4 月 1 日
至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 日本海事科学振興財団

平成 27 年度事業計画

1. 方針

公益財団法人日本海事科学振興財団(以下「財団」という。)は、海洋に関する科学知識について、一般国民特に青少年に対しその普及啓発を図り、もって海洋文化の発展に寄与することを目的として各種公益事業を実施する。

財団の主体事業である船の科学館の運営については、昨年度に引き続き「船の科学館 別館展示場」及び初代南極観測船“宗谷”並びに屋外展示の公開を行うとともに、平成 23 年 9 月 30 日をもって展示公開を休止した本館施設は、調査研究・収蔵施設及び事務所として活用し、博物館活動を継続する。

現施設に替わる新たな海洋博物館構想については、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催が決定したこと、当館が立地する品川区と隣接する江東区が国家戦略特別区域として政令で定められたこと等により臨海副都心地区の開発が加速することを踏まえ、将来に向けての新たな博物館構想の取り組みを継続するとともに、国家戦略特区等の情報収集を行うこととする。

もう一方の柱である海洋に関する科学知識の普及啓発事業については、財団設立以来、収集・作成してきた貴重な収蔵資料に関するデータをホームページ上で広く一般に公開するとともに、プールを使用してカヌーの操船体験教室を開催するほか、関係機関との連携事業を実施し、海や船への興味、関心の喚起並びに海洋に関する科学知識の普及を図ることとする。

さらに、海洋に関する国民の理解増進を図るため全国の博物館・水族館・美術館等社会教育施設で開催する海洋教育を意図した企画展・特別展、各種普及事業及び学芸員の調査・研究活動への支援を行うことにより海洋教育ネットワークの拡充を図り、当館が国内の博物館等社会教育施設における海洋教育の中核的施設となることを目指す。

また、財団の各種事業はボートレースの収益金を財源とする日本財団の助成金の交付を受けて実施することから、事業運営にあたっては、より一層の経費削減に努めることとする。

2. 事業の実施計画

この年度は、上記方針に基づき、次の事業を実施する。

(1) 海洋に関する博物館事業

① 「船の科学館 別館展示場」の公開

「船の科学館 別館展示場」については、昨年度に引き続き、国連海洋法条約における日本の海とその海を守るための取り組みをわかりやすく紹介する「にっぽんの海」や「海を守る」と題したコーナーを中心に、収蔵する資料を公開して展示活動を実施する。

② 屋外展示資料の保存整備

初代南極観測船“宗谷”等の屋外展示資料を適切に保存し、来場者への良好な見学環境を提供するために屋外展示資料の日常的な保守管理を実施する。

③ ボランティアの活用

来館者にとって身近ではない海や船に関する展示に対して理解を深めてもらうため、海洋・船舶に関する専門的な知識を有するボランティアの協力を得て、「船の科学館 別館展示場」入場者及び初代南極観測船“宗谷”乗船者に対する解説・船内案内等を実施する。

④ 博物館の機能整備

老朽化した現施設を維持するため、建物、設備を管理する専門的なノウハウを有する事業者や専門メーカーに、保守管理業務及び諸設備の法定点検を委託する。

⑤ 将来計画の策定

財団が立地する臨海副都心はアジアヘッドクォーター特区に指定され、民間企業群が当該地域の開発計画を策定し東京都に提案しているが、未だ決定に至っていない。そのような状況下、平成 25 年 9 月に東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、東京ベイゾーンにおいては、多数の競技会場が配置される計画が公表され、また、船の科学館に至近の水面に、平成 30 年夏の供用開始を予定する新客船埠頭を建設する計画が東京都から発表されるなど、船の科学館周辺地域の開発は著しく進捗することが予想される。それらを踏まえ、海洋立国日本を代表する海洋博物館の実現を目指し、将来に向けての新たな博物館構想の取り組みを継続するとともに、国家戦略特区や周辺地域の開発計画等の情報収集を行うこととする。

(2) 海洋に関する科学知識の普及啓発事業

① 海洋に関する科学知識の普及啓発活動

財団設立以来、長きにわたって収集・作成してきた貴重な資料や展示物等について、新たな海洋博物館においても有効活用するため、平成24年度より3か年にわたって整理しデータベースの構築を行ってきた成果を財団ホームページ等を用いて広く発信する。

また、海や船への興味・関心を喚起することを目的に、プールを利用してカヌーの操船体験教室を開催するほか、関係機関との連携事業等を実施する。

② 海の学びミュージアムサポート事業

海洋に関する国民の理解増進を図るため、全国の博物館・水族館・美術館等社会教育施設で開催する「海の企画展」(海洋教育を意図した企画展・特別展)及び「海の博物館活動」(海洋教育を意図した各種普及事業)並びに海洋教育が実践可能な「海の学び調査・研究」を支援し、社会教育施設からの海洋教育の普及を図る。

(3) その他財団の目的達成に必要な事業

① 海洋及び船舶に関する研究

博物館の展示や教育普及は、調査研究と常に表裏一体であることから、当館が展示や教育普及の対象としているわが国の海と船の文化について、研究者と連携を図り調査・研究し、その成果を報告書等に纏めて広く一般に普及させるための活動を行う。

② 広報活動

財団が実施した事業の成果を広く国民に周知するため、新聞、テレビ等のマスコミやインターネットを通じて広報活動を実施することとし、財団ホームページのリニューアルを行うほか、海洋関係機関、団体や学校等の諸行事に対して積極的に協賛・協力を行う。

③ 屋外展示品の移設

船の科学館敷地内に保存・展示している戦艦陸奥主砲について、同船の生誕の地である横須賀市へ無償譲渡し、同市内の公園に移設することとする。

④ その他財団の目的達成のため、必要な事業を実施する。